

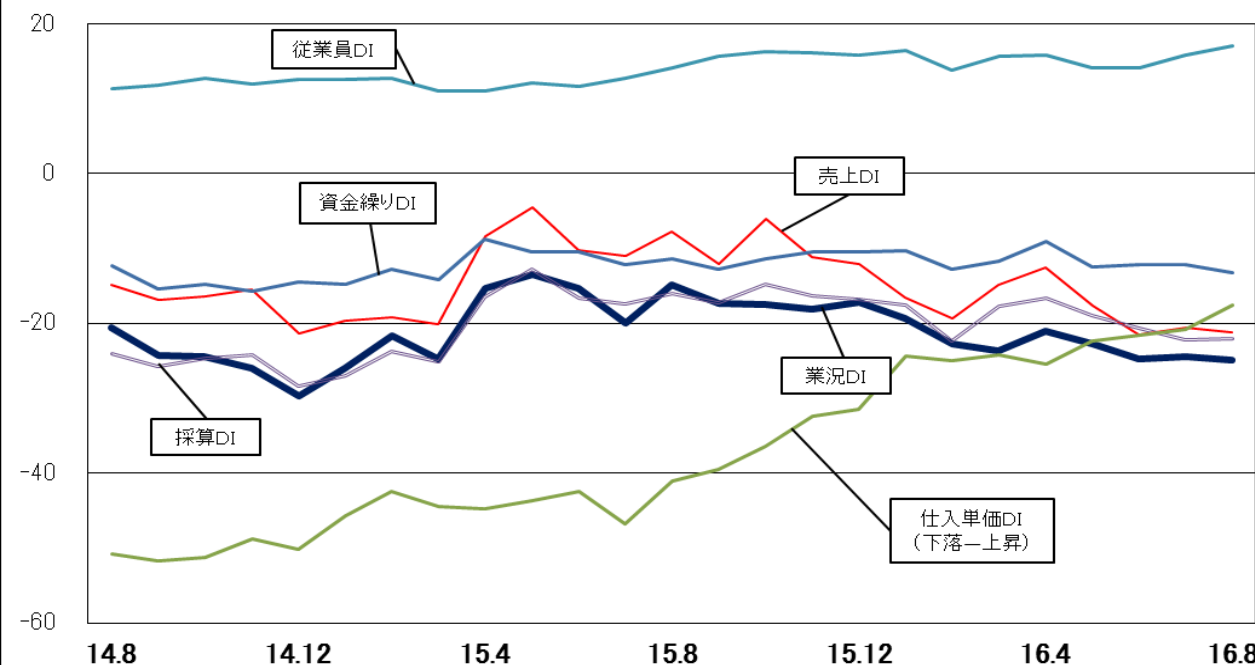


業況DIは、横ばい続く。先行きは改善見込むも、慎重な見方崩れず

ポイント

- ▶ 8月の全産業合計の業況DIは、▲24.9と、前月から▲0.4ポイントのほぼ横ばい。夏休みの堅調な観光需要のほか、賃貸住宅など民間工事に持ち直しの動きがみられる。また、円高などによる原材料価格の下落や依然として低い水準の燃料費の恩恵を指摘する声も聞かれた。他方、個人消費の鈍い動きや、販売先からのコストダウン要請の強まり、慢性的な人手不足による受注機会の損失や人件費の上昇などが、中小企業のマインドを下押ししており、業況感は足踏み状況となっている。
- ▶ 先行きについては、先行き見通しDIが▲21.4（今月比+3.5ポイント）と改善を見込むものの、「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実体はほぼ横ばい。観光需要や住宅建設が全体を牽引するほか、経済対策・補正予算による公共工事の増加、個人消費の喚起に期待する声が聞かれる。他方、人手不足の影響が大きな足かせとなる中、消費低迷や円高、海外経済減速の長期化を懸念する声は多く、中小企業においては、先行きへの慎重な見方を崩していない。

LOBO全産業合計の各DIの推移(2014年8月以降)



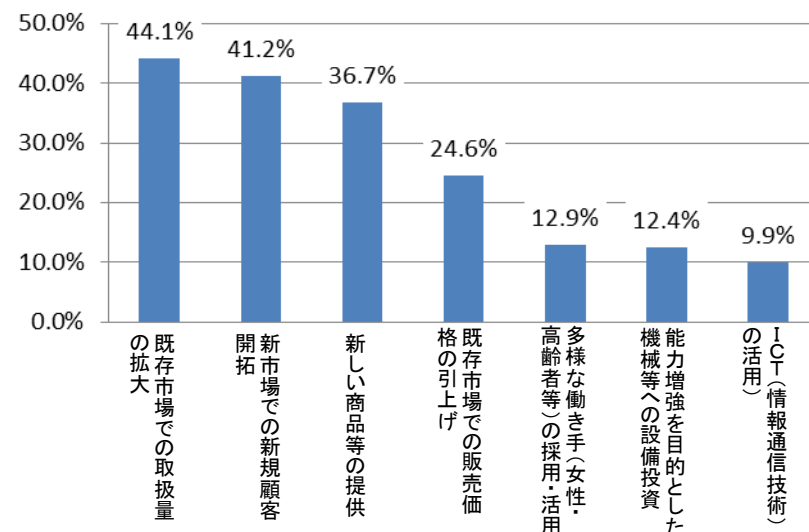
生産性の向上に向けた取組みとその問題点について

- ▶ 中小企業における売上増加、収益力の向上に向けた取組みは、「既存市場での取扱量の拡大」が44.1%、「新市場での新規顧客開拓」が41.2%
- ▶ コスト削減に向けた取組みは、「従業員の人材育成・能力強化」が46.8%、「仕入れ先・仕入れ価格・仕入れ商品等の見直し」が44.5%
- ▶ 生産性向上に取組む上での問題点は、「従業員の能力やモチベーションが上がらない」が34.2%、「人手不足による受注・販売機会の損失」が33.8%となり、中小企業では、人材育成ならびに人材採用への課題が浮き彫りになった

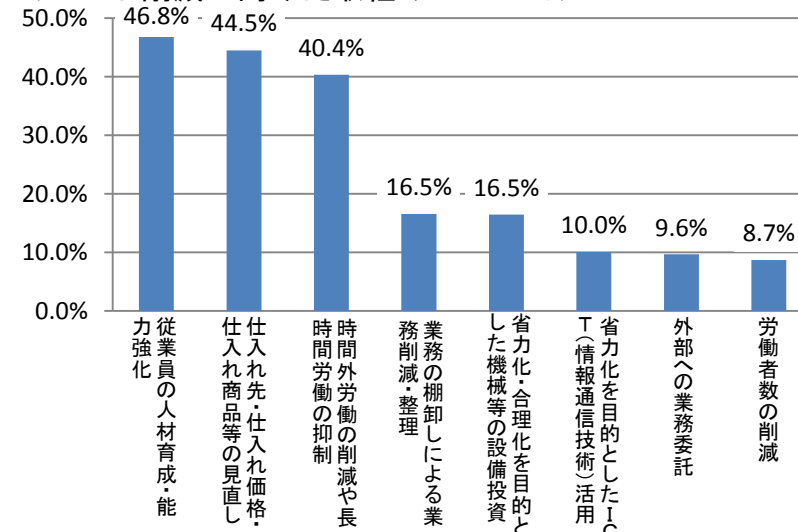
[中小企業の声]

- ▶ 単身者向けのニーズに対応するため、付加価値を高めた小分け商品を開発し、既存取引先に新たな提案を行っている（大船渡 水産加工品製造業）
- ▶ 従業員を、営業・機材設置・メンテナンス等の複数業務に対応できるよう育成し、人件費の削減とともに顧客との接点を強化している（札幌 特殊繊維卸業）
- ▶ 受注増に伴い、人員の補強や従業員の能力を強化し対応しているが、それでも人手が足りず、全ての受注には応えられない（東京 ソフトウェア業）

<売上増加等に向けた取組みについて>



<コスト削減に向けた取組みについて>



<生産性向上に取組む上での問題点について>

